

“ 淡路島の蝶相 ” を書き終えて

登 日 邦 明

筆者は先に、現在までの調査のまとめとして淡路島産蝶類69種について報告したが、まだまだ調査不足の感が強く不備も目につく。今後、本島から見出される可能性がある若干の種についてふれてみると、まずシジミチョウ科ではトラフシジミ^{**}、コツバメなどの分布が考えられ本島の南部ではヤクシマルリシジミ、キリシマミドリシジミ、ルースシジミなども予想される。また、タテハチョウ科ではイシガケチョウ、オオウラギンスジヒヨウモンなどが、シロチョウ科ではスジボソヤマキチョウ、ジャノメチョウ科では北部の湿地にヒメヒカゲが分布するものと考えられる。さらに、北淡路でのギフチョウの調査も一度入念に行ってみる価値があるであろう。さらに報文中にも記したようにヒメシジミを初めとする再発見の望まれるものも数種あり、今後共同好者諸氏の協力によって淡路島の Fauna を明らかにして行きたいと考えている。

ここ数年来、淡路島では土砂採取などによって山膚が削り取られ、北淡町・東浦町・西淡町などでは目にあまるものがある。本年秋季より着工予定の本州-四国連絡橋・明石~鳴門ルート^{*}の決定と、それに伴う道幅30mに及ぶ縦貫道路の建設がさらに本島の自然破壊に拍車をかけようとしていることは周知の通りである。私共の生活環境のあり方が社会問題として大きくクローズアップされてきている今日、このように現状でも決して豊とは云えない自然を荒廃させることに、筆者ははなはだ疑問を持つ。私は当局の深い反省を期待しながら、こうした環境の生物相の解明に早急なる総合調査の必要性を強く指摘しておきたい。 (v , 1973)

* 住香蝶 (名古屋昆虫同好会刊) に投稿中

** 今春、南淡町灘において藤平明氏により発見された。

~~~~~

### 諭鶴羽山でクロシオキシタバ

1973年8月1日、三原郡南淡町灘黒岩から旧道を諭鶴羽山に登り、帰途は灘山本へ降りたが、どちらの道沿いにもクロシオキシタバ *Catocala kuangtungensis* が多く、数十頭を目撃した (6 ex. 採集) ので報告しておく。なお、キシタバは全く見かけなかった。

( 堀田 久 )